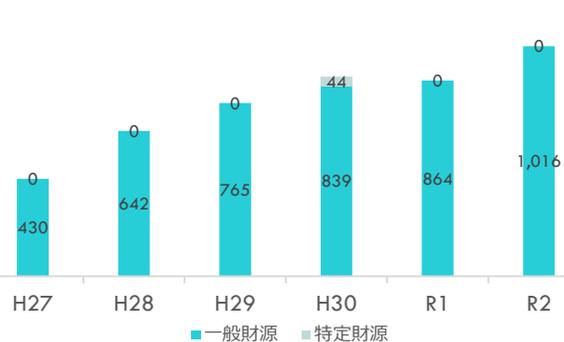
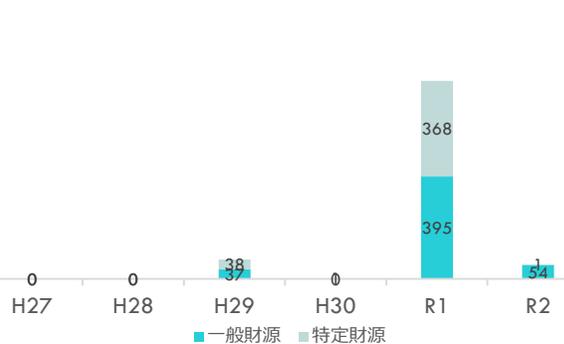


建設課

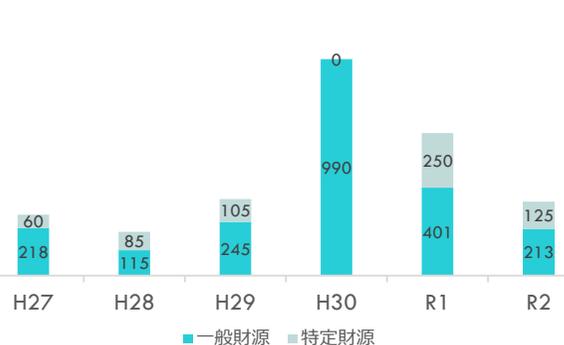
経常的経費の財源(万円)



臨時的経費の財源(万円)



普通建設事業費の財源(万円)



現状と課題

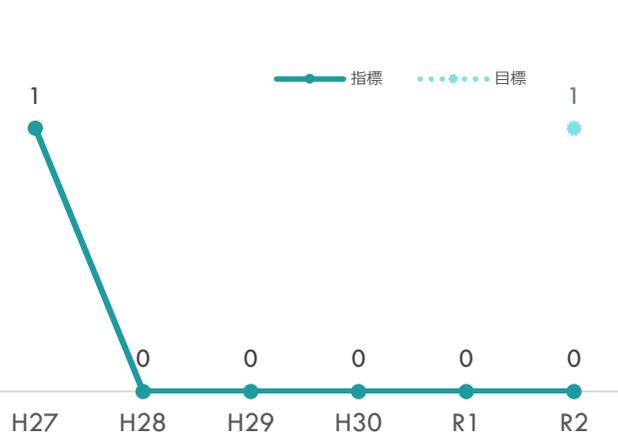
本市のため池については、かんがい用として市内各所に344箇所ありますが、耕作農家の減少により一部農家の経済的負担が増大することから、改修を進めていくことが困難になっています。

ため池には豪雨の際、遊水池としての洪水調節機能もあり、防災面からも改修を進めていく必要があります。

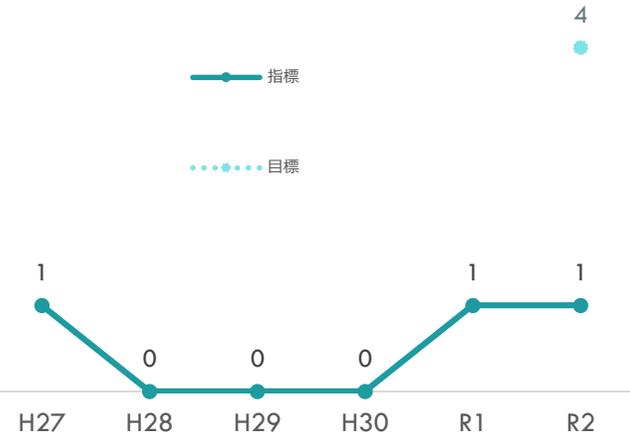
また、本市の面積の約80%を占めている山林については、荒廃山地が見受けられますが、近年、県内でも多発するゲリラ豪雨被害の復旧が優先され、県が実施する荒廃林地の復旧や予防治山事業などの整備が進んでいないのが現状です。

成果指標

ため池改修数(箇所)



治山対策数(箇所)



指標の説明・・・

ため池改修数＝現状（平成28年度）をゼロとして6年後3箇所を目標に改修します。

治山対策数＝現状（平成28年度）をゼロとして6年後2箇所を目標に対策を行います。

課題に対する主な取組

課題	課題に対する主な取組	概要	臨経区分	予算執行(万円)	特定財源(万円)	アウトプット(どのくらいの事業や取組を行ったか)	アウトカム(どれだけの成果が得られたか)
治山対策	治山対策個所の把握	治山対策個所を県へ要望	—	0万円	—	県営治山事業要望N=2箇所	採択件数N=2箇所
森林の保全	治山対策個所の把握	治山対策個所を県へ要望	普通建設事業費	278万円	—	災害防止事業要望N=1箇所	採択件数N=1箇所
林道の保全	緊急性の高い林道の把握	緊急性の高い林道の改修等	経常的経費	361万円	—	維持管理工事を4路線実施	危険性の低下や解消につなげた

施策の評価

一次評価者	役職	建設課長	近年、全国で梅雨前線や台風による集中豪雨により土砂災害等の大規模な災害が多発している。土砂災害警戒区域、土砂災害特別区域は保安林内でも指定されているため、治山事業で実施していくことになると思われるため、岡山県と協力し防災・減災に取り組むため、市としては地元調整等を行い、速やかな事業実施に向けて取り組む必要がある。
	氏名	大森 康晴	
二次評価者	役職	建設部長	ため池は貯水機能も兼ね備えており、防災上からも重要な役割をはたしている施設です。防災重点ため池からハザードマップを作成し、地区住民への周知に努めてください。又、耕作者が減り維持管理が困難となっているため池については、余水吐けの切り下げや廃止等も視野に入れ、県と連携しながら対策を進めてください。
	氏名	淵本 安志	